

私の友達の中に、笑顔を絶やさない子がいる。彼女は、どんなことにもまっすぐ、全力で向かっていくような子だ。当時はまだ小学生だったが、同じ学年とは到底思えないくらい素敵な人であった。

彼女は小学五年生で元々住んでいた東北の方に引っ越してしまっただけで、それからも連絡を取り合っている。

先日、そんな彼女と会う機会があった。その時の会話で、彼女はこんなことを言っていた。

「私は、将来の夢は決まっていなくていいよ。だけど、『誰かのために』行動できるような大人になりたいかな。だって、私達沢山の人に支えられているわけだし、それに私は震災で色んな人に迷惑かけたり助けてもらったりしたから、その分がんばって生きないとその人達に申し訳ないし。」

感心した。これ以上もないほどに。

その時私は彼女にうまく返事ができなかったが、そこから色々考えるようになった。

彼女は東北で被災した。家も、大好きなピアノも、全て奪われてしまった。それでも彼女は前を向き、今日も頑張っている。そう考えると彼女が支えられたと言っていた、「沢山の人」というのは掛け替えのないものだったのだろうと思う。現地の人、ボランティアの人、家族、友達…人は一人では生きていけないとはこの様なことを言うのだなと実感した。

もう一つ考えたことがある。それは国からの支援についてだ。大規模な災害では国の支援が不可欠だろう。そうすると、やはり「税金」といったものを考えることになる。すぐに思いつくのはやはり消費税だ。物を買ったり、サービスを受ける時に発生する税。逆に言えばそれ以外あまり思いつかないのが現状である。けれども、税は必ず何かの形で誰かの役に立っているというのは分かる。彼女を支えた国からの支援も、誰かが、誰かのために納めていた税金からのものだ。

今回、彼女が言った『誰かのために』が忘れられず、思わず彼女のことをこの作文に書いた。勿論、彼女は税をきちんと払うという意味を込めていたとの断言はできない。でも、『誰かのために』というのは税と合致しているのではないかと思う。二〇二〇年、世界は大変な状況になった。けれども税があったから、誰かが誰かの、いつかのために税を払っていたから、何とか日々を生きることができている。

私はまだ中学生であるため、「誰かのために」できることは少ないだろう。それでも、私は彼女から学んだ「誰かのために」を大切にしながらこれからの日々を過ごしていきたい。そして、大人になりまた税について関わり、考える時に彼女のことを思い出し、「誰かのために」という心持ちで税を納めていきたいと思う。